

平成27年度第2回
練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会
会議録

平成28年1月14日

平成27年度 第2回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会

平成28年1月14日(木)
午後6時30分から
本庁舎20階 交流会場

次 第

1 座長あいさつ

2 議事

- (1) ねりっこクラブ開始に向けた準備状況について・・・資料1-1・1-2
- (2) 平成27年度学校応援団向け事業等の実施状況について・・・資料2-1・2-2
- (3) 平成27年度夏休み居場所づくり事業等の実施結果について・・・資料3

3 その他

(資料)

- 資料1-1 ねりっこクラブ開始に向けた準備状況
- 資料1-2 ねりっこクラブ 事業のご案内
- 資料2-1 平成27年度学校応援団まつり一覧
- 資料2-2 平成27年度学校応援団スタッフ研修実施状況
- 資料3 平成27年度夏休み居場所づくり事業等の実施結果について
- 参考資料 練馬区の「これから」を考える～区政の改革に向けた資料～

平成27年度 第2回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会

平成28年1月14日

【座長】 定刻となりましたので、ただいまから平成27年度第2回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会を開催いたします。事務局から、委員の出席状況および配布資料についてご報告をお願いいたします。

【事務局】 本日、所用のため委員一名がご欠席です。また、事務局側でございますが、こども家庭部長が本日は欠席させていただいております。

続きまして、配付資料について確認させていただきます。資料は事前に送付させていただいておりますが、資料2-1「平成27年度学校応援団まつり一覧」について、数字の精査をいたしましたので差し替えをお願いいたします。

また、参考資料といたしまして、「練馬区の「これから」を考える～区政の改革に向けた資料～」を1部ずつ配付させていただいております。練馬区では、昨年3月に、「みどりの風吹くまちビジョン」において、今後5年間の区政運営の方向性を取りまとめました。ただ、施策を推進するに当たりまして、社会環境の変化や行政を取り巻く環境の変化が多々ございます。そうした中で、区政運営を今後どう考えていけば、施策をより円滑にできるだろうかといった観点から、たゆまぬ行政改革を継続していくために、問題提起資料として本資料を取りまとめさせていただいております。その一つとして、子ども・子育て支援も、社会環境の変化に柔軟に対応していかなければいけない特に重要な分野の一つであるという認識のもと、現状分析や、区の考え方をまとめて記載しております。16ページには学童クラブおよびねりっこクラブについての記述がございますので、後ほどお目通しいただければと思います。

なお、この区政改革の資料につきましては、1月17日(日)から区内6カ所で、区長あるいは教育長が自ら区民の皆様と意見交換を行うことも始まります。あわせて、区民意見反映制度を導入しておりまして、パブリックコメントの受付も行っておりますので、ご意見をいただければと考えております。

出席状況および資料については以上でございます。引き続き、会議の公開および会議の進め方について説明いたします。

【会議の公開および会議の進め方について説明】

- 【座 長】 それでは、議事に入らせていただきます。
まず、次第の2の議事(1)ねりっこクラブ開始に向けた準備状況について、事務局から説明をお願いいたします。

【資料1-1および1-2について説明】

- 【座 長】 ねりっこクラブの開始に向けた準備状況をご説明いただきました。
ここで、準備の状況等について、3小学校の委員からご意見いただきたいと思えます。まず、委員からお願いいたします。

- 【委 員】 私どものひろばは、児童の入退室について、入室時間および帰宅時間を記録し、参加状況を把握しております。ねりっこクラブになると、いったん帰宅してからまた参加することも可能ということですので、ひろば室での受付をせずに参加、帰宅する児童が出てくる可能性があります。そうすると、スタッフも管理し切れず、今までのように記録が残せないということで、今の管理状況を維持できないということを懸念しています。本校のひろばは、子どもを安心して預けられるという保護者からの厚い信頼の上に行っている事業です。来年度からのねりっこクラブは今までと違う面もあるということを保護者にきちんと認識していただいて利用していただかないと、誤解が生じるだろうと感じています。

- 【座 長】 続きまして、委員からお願いいたします。

- 【委 員】 まず一番に、この事業に関わっている人たちを安心させてほしいと思っております。ねりっこクラブが始まると、学校応援団が携わる事業の大部分がそちらに行きます。そうすると、残った学校応援団というのは何をすれば良いのか、どんなメンバーがいれば良いのかと、今まで学校応援団に関わっている者たちは思っております。

それから、学校応援団の事業が小さくなったときに、学校応援団設立前の学校開放運営委員会とどう違うのかという、本当に素朴な疑問がまだ解消されておられません。

また、ねりっこクラブにおいて、ひろば事業と学童クラブを一つの事業者が運営するということですが、ひろばを利用する保護者としては、子どもが自由に遊べる場所があればよかったのに、今度はあまりに手が掛かってしまうのではないかと心配があります。一方で、学童クラブを利用している子どもたちやその保護者は、保育の質の低下が生じるのではないかと心配をされると聞いております。

学校応援団側の話は個別に様々させていただいておりますので、学童クラブ側から言うと、ねりっこ学童クラブは利用定員が90名になり、セカンドスペースが結構離れているので、職員がその規模で保育の質を保ちながら対応できるのかといった声も聞いております。私たち3校は4月にスタートしますが、来年度はまた新しい学校を対象にねりっこクラブの実施に向けて動いていくと思うので、その際は本当に関わる人たちを安心させてあげてほしいと思います。

また、一昨年为学校応援団向けの説明会で、ねりっこクラブについて説明がありましたが、多くの質問が出たにもかかわらず、フィードバックがされなかったと思いますので、次回はぜひ、来年度実施校の進め方について、良かったところや悪かったところを活かしながら、4校目以降に活かしていただきたいと思います。

【座長】

続きまして、委員からお願いいたします。

【委員】

先程他校の方と話しておりまして、他校では、今、学校応援団でひろばスタッフをやっている方ほぼ全員が「ねりっこクラブでもスタッフをやってもらえませんか」とお願いされる形で残られるそうです。私どもの場合はそれがなく、最終的には希望者がねりっこクラブのスタッフに申し込む形になったのですが、調整のうえで少々行き違いがあった部分がありました。そのため、今現在スタッフとして残っている方が、ねりっこクラブでもスタッフとして申し込むかという、少し嫌気が差してしまっていて、申し込まないという方が増えています。そのような状況で、保護者から、スタッフが全く入れ替わり知らない人たちがいるところに子どもを預けて良いのかという不安の声も出ています。区と事業者と団長や事務局を含めた学校応援団のメンバーで、最初にもう少し細かい話合いがあれば、スタッフも安心して、「ねりっこクラブのスタッフもやろうかな」と思いやすかったと考えています。

そして、準備会においては、学校応援団としてどのようなことをしているか聞かれますので話はしていますが、正直なところ、ねりっこクラブの準備について誰がどうやって進めているのか、私たちスタッフは見えないことがあります。

また、本校は副校長先生が他区から赴任されてきて、ひろば事業を知らない状況で年度が始まりました。人事に関しては仕方がないとは思いますが、次にスタートする学校は、校長先生や副校長先生の異動がないタイミングであれば、よりスムーズにいくと思いました。

【座 長】 3名の委員からご意見をいただきました。事務局から説明があれば
お願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。
それぞれの小学校で不安という部分がまだまだある点について、真摯に受けとめていかなければならないと思っております。引き続き、準備会等の中でそういった不安の部分を解消しながら進めていきたいと思っております。

まず、ひろばにおいて、今までは原則、ランドセルを背負った子どもだけが来ておりましたが、これからは利用の拡大を図り、子どもたちにとってより遊びに来やすい場所にしていきたいと考えております。そのため、子どもの参加方法にある程度の幅を持たせることを優先に考え、一度帰ってからでも利用できる形で進めております。入退室の時間が管理できないという点については、スタッフの体制等、ねりっこクラブにおいては、今までの学校応援団のひろばスタッフの方にご協力いただきつつ、運営責任者など新たに加わる職員と連携いただくことで、これまでのひろば事業の運営を維持しつつ、更に遊びのプログラムを充実させていく方向で進めていきたいと思っております。

それから、学童クラブの保育の質の低下が心配だという声がありました。平成28年度のねりっこ学童クラブは3校とも利用定員を90名とし、2つのスペースを活用しながら子どもたちを保育していく形をとらせていただきますが、学童クラブの運営の基準に基づき、児童数に見合った職員を追加配置し保育を行ってまいりますので、保育の質や職員と子どもたちとの関係は維持されるものと考えております。学校の校舎内のセカンドスペースを使うことについては、今後準備委託を行う中で、活用の仕方や部屋のそれぞれの機能・特色を活かした運営の形を考え、作っていききたいと思っております。

また、学校応援団と事業者と区の間で、当初意思疎通が不十分であったということは否めないこととございます。その点については、区として、これまでも相互の理解のために時間をかけて説明をさせていただきながら進めてまいりました。ねりっこクラブの実施に関しては、地域の皆様の協力をいただきながら新しい事業を作ってまいります。引き続き区からも、それから事業者からも、現在関わっているスタッフの皆様にも声を掛けさせていただき、4月に向けて準備を進めていきたいと考えております。

【事務局】

たくさんご意見をありがとうございます。

新しい事業を始めるに当たり、前提となる3校の学校応援団の運営状況がこうも違うのだなと、調整させていただく中で我々もわかってきたところです。ただ、先程申し上げたように、学校応援団の皆様のお力を借りながら進めていくことが、ねりっこクラブという事業を新しく発展させていくうえでの前提でございます。

また、学童クラブについて、定員を拡大して各校の待機児童が出ないようにしていくという目標の中でも、保育の質を下げないよう配慮しながら進めていきたいと思っております。

これまで、本当に多くの時間を学校応援団の皆様にご費やしていただいて、準備を進めさせていただいております。今後も新たに生じる課題について、随時解消を図りながら、4月からの運営に支障がないよう努めてまいりますので、引き続き何卒ご理解とご協力をいただきたく存じます。

【事務局】

各学校のひろば事業は、学校応援団の皆様のお力で作っていただき、学校開放運営委員会のとくに比べて、より多くの地域の方々に様々な形での関わりを持っていただいております。その経緯があったからこそ、今回、学校応援団事業の中でも中核的なひろば事業を、ねりっこクラブへ移行するに当たり、地域の皆様のお力添えをいただけるのかと、私どもは受けとめさせていただいております。学校応援団の今後の組織的な部分については、それぞれの学校の開放事業やそれ以外の事業との関係の中で、各校の状況に応じてご相談させていただきながら進めさせていただきたく思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

【座長】

ねりっこクラブについて、先程委員からもお話がありましたように、事業者が入ることによって今までやっていたひろばスタッフの方々が続けられないような状況は、やはり保護者の方々が不安に思ってしまうので、丁寧に準備・調整を進めていかないと難しいだろうと思っております。

また、学校を使う以上、学校のご理解が十分ないと、様々な施設を使わせていただくときも支障が出てくるのかと思います。その点は、学校の先生方の人事異動があった場合でも、しっかりとご理解していただくことが大切だということについて、ご意見いただきました。

他の方からもご意見いただければと思います。

【委員】 先程、委員から、入退室が自由になると時間が管理できないという話を伺いました。学童クラブのように出欠確認はねりっこクラブでもやると認識していたのですが、時間が管理できなくなると、実質的に出欠管理ができないのではないかと率直に思ったのですが、そこはどのような前提だったのでしょうか。

もう一点、3校であれば、非常にうまく、丁寧に進めていच्छゃると思っていました。しかし、学校応援団のスタッフの方々に対し説明不足などところがあるというので、少々驚きました。将来的に事業を拡大していくのであれば、この3校で来年度からスタートして、どういった課題があったのか検証し、それを踏まえて改善していくというのが然るべきだと思います。ですので、今後3校において検証を行っていく予定なのか教えていただきたいと思っています。

【事務局】 ご意見をいただいた入退室の管理については、あくまでもひろばに來ている子どもたちへの対応です。学童クラブは当然出欠確認を行っていきますので、今までと同様に連絡帳や、保護者の方に連絡をするという対応をしております。ひろばに関しましては、子どもたちが來たら名簿に丸をつけ、名札をするなど、ひろばに参加している子どもたちを明確にする対応をこれまで同様に行う予定でございます。

また、ひろばの入退室時間の管理の問題ですが、子どもたちの使いやすさの部分とあわせて、協議をさせていただきたいと思っております。

事業の検証については、想定しておりますが、ねりっこクラブの実施とともに急に環境が変わると、子どもたちが戸惑ってしまいます。子どもたちが一緒に遊ぶ環境は時間をかけて徐々に作っていくということを、平成28年度の実施校において進めていきたいと考えております。そして、事業を進めるうえでできあがった子どもたちの共通の時間や共通のプログラム等、より良いところをさらに今後の事業に活かして進めていこうと考えております。

【事務局】 補足します。検証について、2月に来年度実施3校において運営協議会(準備会)を開催いたします。これは運営開始後も、年2回以上開催していく予定です。当然、保護者の方にも参加いただき、開催していきたいと考えておりますので、利用者、事業者および行政の3者が入った状況で議論し、モニタリングを行っていけると考えております。

また、学童クラブや夏休みの居場所づくり事業では、保護者へのアンケートをこれまでやってきておりますので、こうしたアンケートの実施に加えて、子どもたちの意向も聞いたりしながら、事業を発展させていければと考えております。

【事務局】

ありがとうございました。

先程、学校の校長先生、副校長先生のご理解が必要だというご意見もありました。そこで委員、お願いいたします。

【委員】

前回、私は他区において、同様の事業の立ち上げに関わったという話をいたしました。そこでは、子どもによる手書きの自己申告のものだけではなく、バーコードリーダーによって子どもが今いるのかいないのか管理をした結果、時間ロスが少なくなり、認識しやすくなったということがありました。区においても、おそらく他自治体の事例は既にお調べになっていて、練馬区にとって一番良い形はどれかということを選びながら進めてきたのだと思いますが、今から6年、7年程前にバーコードリーダーによる管理が可能になっているにもかかわらず、なぜ今の時点でそのような話が上がっていないのでしょうか。時間を置いてバーコード等による管理を可能にしていく可能性は何かあるのでしょうか。

もう一点、今、3校の事情がそれぞれ違うという話がありましたが、様々な学校を経験してきている私にしてみれば、そのとおりでろうと思えます。校舎一つとっても、その条件は大きく違います。学校が変われば校舎のあり方が違いますから、A校ではうまく設置できたけれども、B校ではまるで発想を変えないとうまく回らないということは多々あります。3校が同じように進むということではなく、それぞれ独自に一番良いものを探していくことになるのだらうと思いました。

ただし、今後、区内全小学校に広めていく事業ですから、似た傾向の学校は必ず出てくると思えます。先行する学校は、初めてゆえに課題が出てくるかと思えますが、そこをより良くしていくことで、次年度以降にねりっこクラブを実施する学校へ良い情報提供になるのではないかと思います。来年度実施の3校は、産みの苦しみがあるかと思えますが、安全で安心できるような環境の構築を区も本気で行ってくれると思えますので、様々な知恵を出しながら進めていただきたいと思えます。

【座長】

ありがとうございます。委員は何かございますか。

【委員】 まず、特にひろばの子どもが来ているか来ていないかという管理の件は、非常に不安に思っております。職員室に「子どもが帰ってきていない」と電話が掛かってくるのがよくあります。今ですと、ひろばに確認すれば、ひろばに来ていることがわかるのですが、時間差でひろばにいなかった場合に、子どもがいつまでいたのかがわからないというのは、やはり不安があります。

それから、先程学校の施設によって条件が違うとありましたが、ひろば事業をやっている方々の意識の違いも大きいと思います。もともと学校応援団の立ち上げの段階で、全く共通の考え方から来ているわけではありませんでした。そういった中で、本校の学校応援団がそうですが、スタッフの高齢化のため、後を継いでくれる方がいないところも結構あるのではないかと思います。ですが、やはり地域の方で運営できることが一番良いと思っています。事業者完全に入れ替わってしまうということもあるかもしれませんし、この先どうなっていくのか不安を感じているところです。

【座長】 ありがとうございます。先程委員から、バーコードリーダーでの管理について話が出ましたが、事務局から何かありましたらお願いいたします。

【事務局】 ねりっこクラブでは、ひろば事業や学童クラブをさらに発展させていきますが、あくまで現行の学童クラブやひろば事業というものを基本にしていくことを考えております。

ひろば事業は、基本的には見守りであり、保育を行っている学童クラブとは性質が異なるものと考えております。そういう中で、一部の小学校のひろばにおいては、細かな入退室管理をされていらっしゃるものと理解しています。そこを出発点に考える必要はあると思っておりますが、全学校応援団を見渡したときに、児童の状況の管理まで細かくされているひろばは少ないと考えています。

そうした中で、どのような管理ができるかということについて、基本的には、今は紙ベースでの管理ですので、内部管理を強化するという観点でITを活用するという方法はあると思っております。あわせて学童クラブについては、現在、希望される保護者の方に一定の実費をご負担いただいたうえで、児童の入退室のタイミングで保護者にメールが飛ぶ「ねりまキッズ安心メール」というシステムを既に導入しております。このシステムをひろばにも展開できないかということは現在検討しているところです。ひろばは学童クラブと違い、毎日行くということはありません。しかし、今日行くのか行かないのかという

のは、家庭でまずしっかりとお約束をいただくことが前提ではありますが、行くはずの日なのにに行っていないのではないかと、ご懸念はあろうかと思えます。そこは、このようなサービスの拡充で、保護者のご理解を得られるものと考えております。内部管理について、どのような運用ができるか、子どもたちの安全面に配慮しながら検討してまいります。

【委員】 入退室の把握に関してですが、来たときには必ずチェックを入れますし、最後の時間までいた子どもだけでなく、途中で帰った子どもに関しても、時間を記録しています。これは全ての学校でやっていることだと思いますので、そこは少し違っているのではないかと思います。

【事務局】 紙ベースで時刻を記載するやり方での管理はされている応援団が多いことは認識しております。ただ、それは学童クラブの出欠管理とは異なると思っております。そして、複数回の参加について、平日でこの利用の仕方は少数かと思っておりますが、特に夏季休業中などは、昼食で一時帰宅した後、また参加したいというニーズにも応えたいと考えております。複数回の参加を前提とした際の入退室管理や児童の把握が難しいという理由については、個別にもう少しお聞きしたうえで解決策を考えていきたいと思えます。

【座長】 ありがとうございます。

まだ、ご意見があろうかと思えますけれども、次の議題に入らせていただきたいと思えます。ここで、ぜひということがありましたら、お願いいたします。

【委員】 学校応援団の皆様のお話を聞き、大体の様子を理解いたしました。ただ、この会議において、学童クラブの関係者は2名の保護者だけです。学童クラブの様子も伺いたいのに、現場の指導員の方はなぜこの会議に参加されていないのでしょうか。来年度以降、ご検討いただきたいと思えます。

ねりっこクラブについては、最初の事業なのでうまくいかないことが多いのだろうとは思いますが、1月の段階でその状態はどうかと思えます。これでは、保護者が不安に思うのは当然ですし、遊びのプログラムを充実させるとはいえ、無理に一緒にしようとしているように思えます。どのように充実させたいのか、イメージが湧かないため不安であるというのが正直なところです。

【座長】 事務局から何かございましたらお願いいたします。

- 【事務局】 学童クラブ関係者の参加については、現行の学童クラブを所管する子育て支援課や我々が事務局として入っており、現場職員との橋渡しはできています。ねりっこクラブの受託事業者は年度当初には決まっていなかったため、会議の委員として加える検討自体が難しかったというのが率直なところですが、今後何らかの検討はしたいと思います。
- それから、保護者の方は様々ご不安があるとご指摘いただきました。学校応援団の皆様からも率直なご意見をいただいておりますので、真摯に受けとめ、事業者も含めて綿密に協議をしております。従来システムを変える部分については、子どもたちが過ごす環境に影響が及ばないように、最大限配慮しながら進めてまいります。
- 【座長】 現場職員の声については、要望があれば今後工夫するということですが、不安については、準備が始まったばかりということもあり、様々齟齬もあるのかと思います。
- 【委員】 確認したいのですが、学童クラブがスペースを2つ使う場合、常勤職員は2名でしょうか。
- もう一点、専用の学童クラブ室を増やすことはやはり難しく、特別教室を弾力的に使うという方針には変わりないでしょうか。
- 【事務局】 現在、ねりっこ学童クラブの入会募集は、3校とも利用定員を90名と設定して行っております。仮に90名の入会があった場合は、おおむね40名の支援の単位が2つ存在することになります。そして、おおむね40名に対して有資格の常勤職員を1名以上、常勤か非常勤かは問わない有資格の職員を1名以上、さらに資格の有無を問わない職員を1名以上配置することを定めております。加えて、ねりっこクラブ全体を統括する、有資格で常勤の運営責任者が学童クラブの運営について補完することを想定しています。
- 【事務局】 職員の体制については、おおむね40名の支援の単位ごとに、保育の時間帯において常勤の職員がいるという状況を設定し、有資格の職員を2名ずつ配置いたします。このほか、特別な配慮が必要な児童等に対応する職員を加配していくという考え方です。
- 【事務局】 専用のクラブ室等については、学校の老朽化という問題もあり、これから改修を進めていく学校も出てまいりますので、改修のタイミングで学童クラブ室やひろば専用室が確保できることは十分あるかと考えております。しかし、改修時期が確定していない中、待機児童は増え続けている状況でございますので、その間、特別教室等を積極的に活用することで利用定員の拡大を図り、待機児童の解消を進めてまいりたいと考えております。

【座 長】 ありがとうございます。
続きまして、議事(2)平成27年度学校応援団向け事業等の実施状況について、説明をお願いいたします。

【資料2-1および2-2について説明】

【座 長】 学校応援団まつりと、スタッフの研修実施状況についてご説明いただきました。
皆様から、ご質問等ございますか。特に皆様からご質問等はありませんでしたので、次に進めさせていただきます。
続きまして、議事(3)平成27年度夏休み居場所づくり事業の実施結果について説明をお願いいたします。

【資料3について説明】

【座 長】 夏休み居場所づくりの事業および学童クラブ緊急受入事業についてご説明いただきました。
ご意見、ご質問等を受けたいと思います。委員からお願いいたします。

【委 員】 夏休み居場所づくり事業は、多くの児童が利用しているということに驚き、やはり必要性があるのだと感じました。これから更に多くの学校で実施していただけると、保護者も安心できると思いますし、民間学童クラブとしても非常に嬉しく思います。
それから、先程出た児童の入退室の話ですが、民間学童クラブでもキッズ安心メールを利用しております。入退室は保護者の携帯電話に連絡が入ることになっておりますので、もしねりっこクラブでも利用できれば安心面の確保にも繋がり、非常に良いと思います。

【座 長】 今のご意見をぜひ参考にさせていただければと思います。
【事務局】 区内には、区立学童クラブが92施設と民間学童クラブが5施設で計97の学童クラブがありますが、平成27年6月末時点でキッズ安心メールの登録率は82.9%でございます。ねりっこ学童クラブにおいても、従来通りキッズ安心メールは導入してまいります。

ねりっこひろばにおいても、新たにキッズ安心メールを導入できるよう検討しておりますが、現時点で明確なことを言える状況ではございません。どうぞご理解をいただければと存じます。

【座 長】 続きまして委員、お願いいたします。

【委員】 私は、民生・児童委員をやりながら、それと同時に学校等様々など
ところで子どもたちに関わっております。昨年7月の民生・児童委員の
会議の中で夏休みに行き場所がなく、困っている子どもがいるという
話がありました。また、私は学校応援団としても子どもたちに関わっ
ており、本校での夏休み居場所づくり事業も今年度で5年目となりま
した。保護者からは「今年もぜひ」など、問い合わせも多くありまし
た。学童クラブに入れず、ひろばにも家庭の事情で来られない子ども
には居場所がありません。そして、夏休みになると家庭にも居場所が
ない子どもも大勢いるのが現状です。

私どもの学校応援団では、日頃から一旦帰ってランドセルを置いて
来た子どもも、ひろばへの入退室をきちんとチェックし、受け入れて
います。それに関するトラブルは今までありません。それは、やはり
地域の力だからこそできることだと思います。必ず私たちは顔を見て、
「お帰り」とやり取りをしたうえで出席簿に丸をつけ、入退室を管理
しております。夏休みは、一番多い日で約120名来た日がありました
が、学校と連携を取りながら、図書室や家庭科室を借りてひろばを運
営いたしました。今年度は隣の小学校でも夏休み居場所づくり事業を
実施し、その学校でも事業が実施できて、ありがたかったという保護
者からの声も聞いております。また、先程、スタッフの高齢化により
後を継ぐ人がいないという話がありましたが、私どもの学校応援団で
は、学習支援という形で退職された先生方に来ていただいて、勉強を
見ていただくということもやっています。更に、児童指導員等を目指
している大学生に来てもらって、幅広い年齢で子どもと遊ぶこともし
ており、若い人にうまく繋いでいけていると思っております。

夏休みは、午前9時から午後5時までと時間が長く、子どもの過
し方も様々です。よく、イベントを希望される保護者もいらっしゃい
ますが、子どもの都合や家庭の都合に合わせて出入りが自由なところ
が良いところだと思っておりますので、イベントを開催しなくても子
どもは大人が思うほど不自由していないと思えました。そして、夏休み
居場所づくり事業は、とても大事な事業だと、関わったスタッフ全員
が感じています。

【座長】 ここで、副座長からもご意見をいただければと思います。

【副座長】 話は戻りますが、キッズ安心メールに関しては、私も子どもが学童
クラブに通っていたときに利用し、とても安心いたしました。学童ク
ラブに到着したときにメールが来て、帰るときにまたメールが入ると、
何時頃自宅に帰ってくるかがわかり、親としては安心できます。予算

の関係もあると思いますが、学童クラブには既に導入されていますので、そのまま同じものが利用できるのであれば、すぐにひろばでも導入していただけるとありがたいと思います。

もう一点、今回の事業に関して、保護者に対しては丁寧に説明をしていくと伺っておりますが、できれば、校長先生、副校長先生だけでなく、特に新任で来られた教職員の方々にも、概略だけでもご理解いただけるよう説明をしていただけるとありがたいと思います。

【座長】 ありがとうございます。他に何かございましたらお願いいたします。

【委員】 学校応援団事業というのを約10年間やってきて、地域の人々の力はとても大きなものになっていると感じています。地域の人や保護者がスタッフとして加わり、ひろばの子どもを見ているので、保護者も安心して預けられるのだと思います。

先程、委員から、ねりっこクラブに移行するに当たって、今のスタッフが一人も入らない状況が懸念されるということをお伺い、本当に驚きました。本校のひろばスタッフは、希望者は原則、全員受け入れてくれると、準備会でも事業者からスタッフに向けてお話をいただいております。中には週に1回しか入れないスタッフや1学期に1回の保護者会のときだけ入るスタッフもいます。そういう方も関わり続けられる形を区が検討してくださっているということでした。こうして、子どもたちと顔見知りになっているスタッフが、この4月以降も引き続き関われる予定になっています。65校あれば65通りのやり方があるのかもしれませんが、保護者の安心等を考慮し、現在のスタッフがそのまま引き続きできるような形で、ぜひ進めていただければと思います。

【座長】 ねりっこクラブを来年度から実施する3校においては準備が始まっている中で、様々な不安があるということです。これから全校に事業を広げていく意味では大事な視点だと思えます。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。

ねりっこクラブを始めるに当たり、前提として現在の学校応援団スタッフを中心にねりっこひろばを運営していくことを考えております。ただ、事業者の雇用ということになりますと、そこに事業者の判断が入るということは理解しております。現行のスタッフの方でも、雇用下での条件で折り合わずお辞めになる方も中にはいらっしゃると思っております。様々な行き違いがあり、先程のようなご指摘をいただいた学校もございました。しかし、団長をはじめとする学校応援団

の皆様や事業者および行政も入った中で話し合いを進めてまいりましたので、一人も残らないというようなことは決してないものと考えておりますし、学校応援団の皆様にもぜひ引き続き関わっていただけるよう、お願いしてまいります。

【座長】 スタートからあまり不安が残らないよう、十分に話し合いができれば良いと思います。

【委員】 学童クラブの指導員に関することと、教室のことについて、私の意見を申し上げさせていただきます。

まず、おおむね40名に対して常勤職員が最低1名ということですが、3年間子どもを預けていた立場からすると、常勤職員1名では少なく、やはり2名は必要なのではないかと思っております。

学童クラブの部屋については、リラックスできる場であるということが、子どもにとって非常に大事なことなのだろうと思っています。専用のクラブ室というのは、子どもたちにとって自分たちの部屋です。タイムシェアで特別教室を借りるということになると、そのような感覚になりづらいのかと思います。なかなか専用の部屋を確保しづらいという状況はあると思いますが、少しでも子どもがリラックスでき、子どもにとって第二の家である今の学童クラブの良さを失わない方向を、知恵を出し合って考えていただきたいと思います。

【事務局】 まず、職員の配置について、最低1名の常勤職員を含めた有資格の放課後児童支援員を、常に40名の支援単位に対して複数名配置するように考えておりますので、現行の学童クラブと遜色ない水準は維持できるものと考えております。加えて有資格者の運営責任者が学童クラブだけではなく、ひろばも統括する立場になりますので、総合的な職員体制としましては、現行の学童クラブを下回ることはないと考えております。

タイムシェアによる特別教室の利用については、占有的に使える部屋があれば、それに越したことはありません。しかし、校庭内に学童クラブを増設することは難しいため、このような策をとり、待機児童の解消を図っていくところでございます。今回お借りする部屋も和室、音楽室、生活科室と様々ですが、実施に当たっては、カーペットを敷く等の工夫をしております。既存の学童クラブ室の畳のスペースでくつろげるということもありますが、サブスペースでもそのような活用ができるように考えたいと思っております。

- 【座 長】 ありがとうございました。
 これでご質問等は打ち切らせていただきたいと思います。委員の皆様から多くのご意見をいただきました。本日いただきましたご意見を、これからの事業運営に反映していただきますよう、お願いいたします。
 また、運営委員会は年3回の開催を予定しています。次回の日程について、事務局からお願いいたします。
- 【事務局】 次回の開催については3月を予定しております。机上に日程調整表をお配りしておりますので、ご都合の良い日に丸を記載いただき、日程調整のうえ、決まり次第、改めてご案内いたします。
- 【座 長】 これをもちまして、平成27年度第2回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —